

技術開発完了報告

秋田管林局
鶴岡管林署

題名	六十里山雪害対策				
自主 区分	局	開発 期間	昭和38年 ～平成7年	担 当	業務課 経営係
目 的	<p>最深積雪 2.5m以上の豪雪地帯における造林地の成長及び雪害の実態を把握し、造林成否の原因を明らかにして新植地の設定、更新保育作業の方法等、造林技術の確立を図る。</p> <p>〔開発箇所：田麦俣森林事務所 75,か1外1林小班〕</p>				
結 果	<p>当該試験地付近の標高は800～820m、降積雪量は3～7mである。 植栽木の状況は大部分が根曲がり、幹曲がり、幹折れ（割）等の被害が顕著であり、一部峰筋に風衝地だけが成林の見込みがあるが極端に成育が劣っている。</p>		<p>技術開発経費内訳</p> <p>＜人工＞ 千円</p> <p>物件費 役務費 人件費 （一部記録がないため記入不可能）</p> <p>基 職 < > その他 < ></p> <p>合 計</p>		
<p>開発経過と調査内容</p> <p>昭和30年度植栽 A区(樹種別) スギ,カラマツ,ヒバ,トドマツ 3回繰り返し 1区画 0.05ha (スギ200本,カラ125,ヒバ200,ト200植)</p> <p>B区(スギ本数別) ha当たり4000本(普通),6000本(150%),10000本(250%) 5000本(寄植1株5本) 3回繰り返し 1区画 0.05ha</p> <p>C区(スギ, カラマツ混植) 1区画 0.05ha ha当たり スギ2500本 カラマツ1500本植 3回繰り返し</p>					

実施経過					
年度	保育等	調査等	年度	保育等	調査等
30	植付		48		B区第5回毎木調査
38	下刈	固定試験地編入	49		A区第4回, C区第3回 毎木調査
39	//	A区第1回毎木調査	50	つる切	B区境界点に合成樹脂設置
40	//	BC区第1回毎木調査	51	除伐	B区標準地調査
41	//	B区第2回調査	53		AC区標準地調査
42	//	AC区第2回調査	58	//	
43	//	B区第3回毎木調査	59		ABC区標準地設定
44	// 除伐		60		ABC区標準地調査
45	//	B区第4回毎木調査			
46	// //	A区第3回毎木調査			
47	//				
<p>評価及び普及指導</p> <p>最深積雪 2.5m以上の豪雪地帯における造林地では、成長が極端に劣り幹折れ幹割れなどの雪害が確認された。試験地の植栽木の大部分が成林の見込みがなく造林地としては不適であると判断される。 不適と判断されるため当技術開発の完了報告とするが、今後新植地の設定等に調査結果を活かしていきたい。</p>					